

バタンバンのラジオ局のDJ テリーから電話があり、それはCMCに訪問者がいるのですぐに来てほしいという内容だった。行ってみると一人の義足の女性が我々を迎えてくれた。さっそく事情をお聞きした。以下彼女が話して下さった内容。



ボウ・マイさん

私の名前はボウ・マイです。年は38才です。家はラジオ局から車でおよそ3時間ほどの山の麓にあります。同じく38才の夫も地雷被害者で片足を失っています。子どもは5人います。まだ子どもが2人しかいなかったとき、夫はコココン州で兵士をしていました。貧しかったので私もコココンへ行き、軍のキャンプで料理等の手伝いをして生計をたてていたのです。子どもたちは孤児院に預けました。そうするよりしかたなかったんです。

そして1997年の7月、私たちがいた軍キャンプ付近で銃撃戦が勃発しました。私は戦闘から逃れようと必死で森の中を走って行きました。その時に地雷を踏んでしまったのです。そして夫もその戦闘中に地雷を踏んで足を吹き飛ばされました。私たち2人の他にも数十人もの人が地雷の被害に遭い、一斉にプノンペンの病院に運ばれました。本当に悲惨な状況でした。治療が完了してからはバタンバンに戻り、木を刈って売る仕事で生計を立ててきました。1日に得られるお金は5,000リエル(約150円)ほどです。それだけでは暮らしていけないのでその他日雇いの仕事をすることもあります。それでも毎日食べていくのがやっとです。

5人の子どものうち、現在一緒に暮らしている子どもは3人です。長男はタイ人の男にだまされてタイで重労働を強いられていると思います。連絡がとれていないのでとても心配しています。次男はコココンの軍キャンプにいた頃からずっとバタンバンの孤児院にいます。下の3人はまだ学校に通っています。もちろん子どもたち全員と暮らしたいのですが、今の状況ではとても無理です。

番組のことは偶然知りました。ある日、近所の家を訪れていた時に、VOICE OF HEARTという障害者のためのラジオ番組があることを知ったのです。それから毎週かさかさ番組を聞くようにしました。そして番組で、障害者に職業訓練を提供しているNGOがあることを知りました。貧しさを抜け出す手立てが全く無い私たちにとって、とても興味深く、自分たちもそこへ入校したいと強く思いはじめました。もしそこで職業技術が習得でき、商売ができるようになれば今の家庭の状況は必ず改善されると思うからです。番組で放送された電話番号が聞き取れなかったので、藁をもすがる思いでラジオ局に来たのです。



3時間も離れた遠方から来てくださったマイさん。交通費さえなく、近所に借金をしてまでである。それほど厳しい生活を強いられているということだ。話をお聞きして、我々是一緒に彼女の生活の改善策を話し合った。そして職業

訓練センターをいくつか紹介した。うまくいかなかったときのために我々の連絡先も教えして差し上げたが、その後、バンテアイミエンチエイ州の障害者のための職業訓練校 CWARS と連絡がつき、第一歩が踏み出せたということだ。連絡先を彼女の生活が上手くいくようになることを祈って止まない。

このように、VOICE OF HEART により、障害者を支援する NGO の情報を得て、実際に足を運び技術を身につけ、その後、職を得られる方がいる。困っている障害者の皆さんの手助けができているという事実には、番組制作者としてこれほど嬉しいことはない。

最後に、マイさんの番組の感想を掲載する。

VOICE OF HEART は本当に良い番組だと思います。番組の中では詩や手紙で様々な障害者からの感情のこもったメッセージが放送されて、とても励まされます。これからどうやって生きていこうかと考えた時に、すごく参考になるアドバイスがたくさんありました。それと、障害者を支援する様々な NGO の情報を流していることが本当にありがたいです。今回私が CWARS のことを知ることができたのもこの番組のおかげです。ありがとう。私は何があっても頑張って、少しでも今の家庭の状況を改善します。

